

## 平成28年度募集定員の上限について(案)

### 1. 平成27年度の募集定員見直しについて

- 平成27年度の募集定員については、激変緩和措置を廃止するとともに、都道府県別の上限の計算式を一部見直し、全国の研修希望者数の推計に医学部入学定員の増を織り込むとともに、都道府県が各病院に配分できる枠(都道府県調整枠)を新たに加えている。
- 全体の募集定員数は、研修医の地域的な適正配置を一層誘導する観点から、平成27年度に研修希望者数の1.2倍とし、次回見直しまでに約1.1倍とすることを基本としつつ、アンマッチ等の状況を慎重に勘案しながら適宜修正していくこととした。

### 2. 平成27年度募集の結果のまとめ

- 募集定員は、地方を中心に20の県<sup>\*</sup>が都道府県調整枠を各病院に配分しきれず、全国合計で上限11,583を361下回り、11,222となった。

※ 岩手、秋田、山形、栃木、埼玉、石川、福井、山梨、静岡、鳥取、島根、岡山、徳島、香川、高知、佐賀、長崎、大分、宮崎、鹿児島

- 研修希望者数は、推計値の9,634人を428人下回り、9,206人となった。平成21年の入学生全員が平成27年に卒業すると仮定したが、卒業予定者数が推計ほど伸びていないためと考えられる。
- 募集倍率はその結果、平成25年度の1.237倍から1.219倍に低下したが、想定していた1.20倍を上回った。

### 3. 平成28年度募集定員における設定方法の案

#### <案の1>

現行の算定方法どおりで設定(全国の募集定員数の上限を、研修希望者数推計の1.18倍とする。)

- ・ 研修希望者数の推計値は、平成27年度から408人増加して10,042人となり、全体の募集定員の上限は11,583から267増加して11,850<sup>\*</sup>となる。  
※ 都道府県調整枠の規模と地理的条件等の加算の規模はバランスを調整して行う。
- ・ 平成27年度と同様、実際の研修希望者数は推計値を下回り、また、20程度の県において都道府県調整枠を各病院に配分しきれずに、募集定員が上限を下回ると考えられることから、募集定員の倍率(=募集定員/実際の研修希望者数)は、1.18倍からかい離すると見込まれる。

#### <案の2>

実際の募集定員の倍率を1.18倍に近づけるよう設定

- ・ 研修希望者数及び研修医総数の推計値並びに全体の募集定員の上限は、現行の算定方法を用いずに平成27年度と同じにして、それ以外のデータ(人口、高齢化率等)は最新のものに置き換えて計算する。
- ・ 全体の上限は変わらず、都道府県が配分しきれない調整枠の数もほぼ同様と考えられることから、募集定員も平成27年度(11,222)と同程度になると見込まれる。
- ・ 平成26年度の医学部5年次生は、前年度より342人<sup>\*</sup>増えている。平成28年度の研修希望者数は、同様に増えれば9,548人になると見込まれる。※ 防衛医科大学校除く。
- ・ 募集定員の倍率は、約1.18倍(1.175倍)になるが、現行の算定方法どおりには計算しないこととなり、いびつになる。

#### 【参考1】募集倍率を次回見直しまでに1.10倍にする見通し

平成32年度に募集倍率を1.10倍にする場合、研修希望者数10,293人に対して、募集定員は11,322とすることが必要。平成27年度の募集定員は11,222で既に100下回っており、募集定員が上限を下回る県が現状のまま続く場合、都道府県調整枠の上限を使い切れている県に再配分する工夫が必要。

【参考2】平成27年度募集定員における計算値と実際との比較

		計算値	実際の数値
研修希望者数	①	9,634人 <sup>※1</sup>	9,206人 <sup>※2</sup>
募集倍率	②	1.202倍 <sup>※3</sup>	1.219倍
募集定員(上限)	③=①×②	11,583人 <sup>※3</sup>	11,222人
	研修医数(推計)	④=①×0.88 <sup>※4</sup>	8,518人
	地理的加算	⑤	1,071人
	都道府県基礎数	⑥=④+⑤	9,589人
	都道府県調整枠	⑦=③-⑥	1,994人

※1 研修希望者数推計値は、医学部定員の伸び率を勘案して国家試験受験者数を推計し、それに過去の国家試験希望者数に対する研修希望者数の割合の3年間平均(1.016)を乗じて算出

※2 マッチング参加者及び自治医大・防衛医大卒業予定者の合計

※3 京都府の特例加算20を含んで計算

※4 平成25年度における、研修希望者に対する採用実績の割合